



特集1 国際貢献・協力セミナー	P 2
特集2 海外技術研修員の来岡	P 2
事業報告 平成30年7月豪雨災害 外国人被災者への支援について	P 4
私、岡山に住んでいます イタリア パスクアリーニ・マリオさん (岡山後楽園外国語対応スタッフ)	P 7
世界の文化 ～文化の交わり編～	P 8
Think Global, Act Local ～県内国際団体のご紹介～ NPO法人 メンターネット	P 8
図書資料室からのお知らせ ボランティア募集 ほか	P 9
イベントカレンダー 国際貢献NGOフェア ほか	P 10

おかやま 国際交流



笑顔で講演をするコウケンテツ氏

国際貢献・協力セミナー

10月14日(日)

講師：料理研究家 コウケンテツ氏

共催：岡山発国際貢献推進協議会、特定非営利活動法人 岡山県国際団体協議会

毎年10月16日は国連が定めた世界の食料問題を考える日、「世界食料デー」です。その目的は世界に広がる飢餓などの問題を解決し、最も重要な基本的人権である「食料への権利」を現実にすることです。日本は、世界食料デーをきっかけに2008年から、10月を「世界食料月間」としました。

岡山県国際交流協会では、料理研究家のコウケンテツ氏を講師に招き、「食を通して見た世界—私たちにできること—」と題した講演会を開催し、食を通じた国際貢献・国際協力について一緒に考えました。
(詳細は、次ページをご覧ください。)

国際貢献・協力セミナー



講師の Kou Kentetsu 氏

講師 料理研究家
Kou Kentetsu 氏

10月の世界食料月間にちなみ、料理研究家の Kou Kentetsu 氏を迎え講演会を開催し、158名の参加者が集いました。

Kou 氏は、旬の素材を生かした簡単でヘルシーなメニューを提案し、テレビや雑誌、講演会など多方面で活躍しており、NHKの番組「Kou Kentetsu の世界幸せごはん紀行」などでは、カンボジア、タイ、デンマーク、ネパール、フランス、ベトナム、ポルトガル等を訪れて現地の人々と交流を図り、食を通してのコミュニケーションを広げる活動に力を入れています。

まず、Kou 氏の子育ての話や子ども料理教室の話などから、そもそも食とは、味覚とはということからはじまり、食べることの重要性について改めて考えました。また、世界中を旅した実体験から、台所を訪ね、食材や調理環境を見れば、何を大切に、どのような生活をしているか、どんな宗教観を持っているかなどが分かり、食は誰でも簡単に多文化理解への一歩を踏み出せるきっかけになるとの話が



講演会の様子

るか、どんな宗教観を持っているかなどが分かり、食は誰でも簡単に多文化理解への一歩を踏み出せるきっかけになるとの話が

共催 岡山発国際貢献推進協議会、
特定非営利活動法人 岡山県国際団体協議会

ありました。

最後に、「世界では9人に1人が飢えている状況であり、フードロスをはじめとする食料問題が山積み。私たちにできることとして、『疑問や批判よりもまず行動、違いを受け入れること』からはじめ、国際貢献・協力を難しく考えるのではなく、『知ろうとする姿勢を持ち続けること』を大切にしましょう。人や社会が幸せになるには、自分自身が幸せになること、まずは自分たちや家族の食生活を見直すところからはじめましょう」という話があり、参加者の共感を呼びました。

参加者からは「食を通すことで文化や宗教などが見え、何より様々な国の人と関わることができることを知った」「食品ロスについて考えさせられた。家庭での食生活を見直すところから、世界の食料問題について考えたい」「世界の食事情や状況を教えてもらい、最後には日本の家庭の食卓からできることを考えたのは、とても良かった」などの感想がありました。

Kou 氏の前向きで、柔軟に世界の食文化や人々、文化に関わり、吸収したものを発信していく姿勢から多くを学ぶ講演会となりました。



世界中の料理の写真をしている様子

海外技術研修員の来岡

海外の有能な青年を研修員として受け入れ、必要な技術の習得を通じて研修員の出身国の発展に寄与する人材を育成する目的で、国際貢献ローカル・トゥ・ローカル技術移転事業を県から受託しています。

本年度は4か国、5名を受け入れました。モンゴルのムンフバイル・バトラフさん(医療)は9月、ブラジルの竹内アンドレ和郎さん、俵谷マテウスひろしまザルドさん

(両者とも機械工学)は10月、カンボジアのソック・ヴィンダーさん(障がい者スポーツ)は11月にそれぞれの充実した専門研修を修了し、たくさんの思い出とともに帰国、現在自国で活躍しています。同じく、中国の栗 富陽さん(日本語教育)も研修を終え、母国の発展を願いながら帰国の途に就こうとしています。

※()の中は研修科目



ムンフバイル・バトラフさん



竹内アンドレ和郎さん



俵谷マテウスひろしまザルドさん



ソック・ヴィンダーさん



栗 富陽さん

研修員ふれあい講座「ブラジル・モンゴル大研究」

講師：竹内アンドレ和郎さん(ブラジル出身・研修科目：機械工学)

俵谷マテウスひろしまザルドさん(ブラジル出身・研修科目：機械工学)

ムンフバヤル・バトラップさん(モンゴル出身・研修科目：医療)

モンゴルの説明をするムンフバヤルさん

9月1日(土)



俵谷さん(左)と竹内さん(右)による発表



参加者と交流する竹内さん(左)

ブラジルとモンゴルから来岡している研修員の3名が講師となり、それぞれの国の暮らしの様子について学びました。

竹内さん、俵谷さんは共同でブラジルの暮らしについて紹介しました。国土面積や人口、公用語はポルトガル語であることなど、基本情報に続いて、7種類もある紙幣の話では「最も高額な紙幣は100リアルだが、小さなお店だとおつりが無いこともあるので、ブラジル人はあまりこの紙幣を使わない」と俵谷さん。ブラジルと言えばカーニバル、とよく言われるそうですが、「ブラジルは世界で一番日

系人が多い国。そのためか、七夕祭りや日本祭りがあり、私はそちらのお祭りも好き」と竹内さんは説明しました。

ムンフバヤルさんはモンゴルについて、たくさんの写真を使って発表しました。カザフスタン、中国、ロシアに囲まれた地形により、地域によってさまざまな文化が受け継がれていることを説明しました。なかでも、いくつかの伝統的な祭りが盛大に開催される様子が次々と紹介され、参加者の目を釘付けにしました。参加者からは「モンゴル相撲やアーチェリー、競馬を盛り込んだスポーツの祭典『ナダムフェスティバル』について知らなかった。ぜひ見に行ってみたい。教えてくれてありがとう!」と感想が寄せられたほどでした。また気候について、年間250日間は晴天であることを明かし、「岡山と同じ晴れの国であり、親しみを感じる」とムンフバヤルさんは笑顔で語りました。

後半はブラジルとモンゴルに関するクイズ大会、研修員と15名の参加者の交流タイムを設け、和やかな雰囲気の中で両国に対する理解を深めました。

研修員ふれあい講座「カンボジア・中国大研究」

講師：ソック・ヴィンダー氏(カンボジア出身・研修科目：障がい者スポーツ)

栗 富陽氏(中国出身・研修科目：日本語教育)

10月27日(土)



ソックさん(左)と栗さん(右)による発表

カンボジアと中国の人々の暮らしぶりについて、ソックさん、栗さんが講師となり発表しました。

カンボジアでは、まだまだ学校が不足しており、児童一人当たりが受けること

のできる授業時間が限られている教育現場の状況や、情操教育、特に体育について指導要領を作ることから取り組み続けてきたソックさんの所属団体である特定非営利活動法人ハート・オブ・ゴールドの活動について日本語で丁寧に説明しました。「私はカンボジアで一人暮らしをしている。それは私の国では珍しいこと」とソックさんは説明し、家族や親せきが集まって大勢で夕食をとる様子など、カンボジアの日常風景を笑顔で語りました。

一方、中国江西省出身の栗さんは、おすすめの観光スポットや食文化について発表しました。南昌市の滕王閣

や龍虎山のような有名なスポットについて、美しい写真を使い歴史情報を含めての説明でした。参加者から「その山に地元の方はよく登るのか?」などと活発に質問が飛び交いました。また、茶餅や酒糟魚など地元の名産品について、参加者は実際に試食をしながら説明を聞きました。

その後の交流会では、クイズをしたり各国の名産品の味見をしたりしながらリラックスした雰囲気でお話をしました。

10人の参加者からは「研修員の皆さんとなかなか知り合う機会がないので、たくさんお話ができて楽しかった」との感想が寄せられました。



カンボジアの説明をするソックさん



クイズ勝者とソックさん(左端)、栗さん(右端)



こちらのQRコードを読み取り、動画をご覧ください。



平成30年7月豪雨災害 外国人被災者への支援について

① 相談窓口での対応

- 旅行者からの「JRが運休となったので、ゲストハウスを探してほしい」「倉敷観光を計画しているが、安全、交通機関は大丈夫か」などの問合せに対応した。
- 自宅が2階まで浸水したブラジル人へ「り災証明書」や家の片づけ方法を説明し、保険金を請求するときに必要な書類を確認した。
- アパートが被害にあった留学生が次のアパートを探す間、ホームステイをしたいとの連絡があり、受け入れ先を紹介した。

② 多言語での情報発信

- 当協会ホームページ、Facebook、Twitterに緊急情報として「多言語相談」「り災証明書」「家の片づけ」などの情報をボランティア等が翻訳し、多言語で掲載した。(英語、中国語(簡体字)、韓国語、ポルトガル語、やさしい日本語)
- 高梁市役所からの依頼で、断水情報を韓国語に翻訳した。
- 倉敷市役所からの依頼で、被災者のための支援制度、住宅・生活・子育て支援情報などを掲載した『広報くらしき臨時号』の目次をボランティアが計3回翻訳した。(英語、中国語(簡体字)、韓国語、ポルトガル語、スペイン語)

翻訳ボランティア活動記

英語 / 南郷 景悟さん(日本)

災害翻訳募集のメールを拝見して、日本語もままならず困り果てている被災者のことを慮り、即申し出ました。

翻訳案をすぐに提出したところ、追加のご依頼も頂戴し、生きがいを感じながら取り組みました。今後も困っている方の一助になればと思っています。



中国語(簡体字) / 許 銀珠さん(中国)

今回、翻訳をしながらはじめて『広報くらしき』を隅々まで読みました。市役所の取組みを見て特に感心したのは、①市民一人ひとりに対して細かい対応をしてくださること、②災害で大変なところにも関わらず外国人に対しても一視同仁とした対応をしてくださることです。平和かつ安定している社会だからこそできる対応ではないかと思います。



韓国語 / 金 允姫さん(韓国)

今回の翻訳で、倉敷市の災害支援、対応を少し知ることができました。自分が思っていたよりもたくさんの言語で案内があり少し驚いたのと外国人住民のためにこのような支援があることをうれしく思いました。周りの友人、留学生などに倉敷市からいろいろな支援があることをもっと教えてあげたいと思いました。言葉が通じなくて困ったり、混乱したりする状況になったときは、市に相談できると思うだけで私たち外国人はすごくありがたく、助かります。



ベトナム語 / ファム・ティ・トゥ・ハーさん(ベトナム)

自然災害が起こった際には、心も体も弱くなると思います。周りの人々が団結して、お互いに助け合うことがとても大切です。翻訳をしながら、自然災害で受けた困難を乗り越えることは簡単ではないと共感しました。翻訳が被災者の方々に少しでも役立てば、心からうれしいです。



今回の豪雨災害は、外国人住民や観光客に大きな混乱をもたらし、外国人への情報不足が課題となりました。当協会では、外国人への問合せ対応や多言語での情報発信などを県市町村、関係団体などと連携・協力し、引き続き外国人支援に取り組みます。

ウエストサイドカーニバル2018に出展

8月11日(土・祝)

主催：ウエストサイドカーニバル2018実行委員会 共同出展：JICA中国、岡山フェアトレードの会
運営協力：ダフェプロジェクト、jam tun、岡山県国際交流協会サポーター有志の皆さん

吉本お笑いステージやグルメ屋台など多彩なイベントが繰り広げられる毎年恒例の標記の催し(会場：岡山コンベンションセンター)にブース出展しました。

今年は、ネパールのすごろくや民族衣装体験、アフリカ布

を使ったリボンブローチやおりづくり、国旗のデザインの折り鶴、JICA提供による缶バッジやガチャガチャカプセルなどの体験コーナーや国際協力の展示、フェアトレード商品の販売など、約410名のブース来場者に楽しんでいただきました。



ネパールのすごろくを楽しむ家族連れの出場者



カラフルな模様のセネガルの布雑貨品の展示販売



アフリカ布を使ったしおりづくりの体験



ネパール産のフェルト手芸品の展示販売コーナー

子ども日本語学習サポーター研修会

8月19日(日)、26日(日)

講師：第1回 山陽学園大学 総合人間学部言語文化学科教授 山根 智恵氏
第2回 子ども日本語学習サポーター 岡 喜美世氏

外国人児童生徒の日本語学習支援ボランティアの養成及び子ども日本語学習サポーターのスキルアップのための研修会を開催しました。

第1回は、32名の参加者が山根 智恵氏から、県内の外国人児童生徒への日本語学習支援の取組みや状況を聞きま



第1回 山根 智恵氏の講義

した。また当協会が作成した「子ども日本語学習支援ガイドブック」を使い、サポーターをする上で必要な派遣の流れや教材・教具を使った指導方法、サポーターの役割や心構えなどの基礎知識を学びました。

第2回は、25名の参加者が岡 喜美世氏から教材・教具や指導方法を学びました。加えて「サポーターは、子どもの心に寄り添い、個に応じたサポートをしなければいけない。ただし、サポーターは先生ではないので、きっちりと教えると自分の心が苦しくなることがある。自分のできる範囲でサポートを行えば良い」と教わりました。子どものサポート方法だけでなく、サポーターのメンタル面にも重点を置いた内容でした。

両講義は実践に基づいた内容であったため、参加者から評価は高く、既にサポーターをしたことがある参加者は「10回の活動で何か成果を出さなければと重圧を感じていたが、気持ちが楽になった」、新しくサポーター登録をした参加者は「サポーターは、日本語指導や教科学習の補助だけではないことが分かった」などの感想がありました。



第2回 岡 喜美世氏の講義中の様子

今回の研修会では、8名の参加者が子ども日本語学習サポーターに登録しました。今後、子ども日本語学習サポーターとして活動してもらう予定です。



講義中の様子

英語で話そう

8月26日(日)

講師：俳優、舞台演出家 カン コンス 姜 侖秀氏



姜 侖秀氏によるコメディショーの様子

英国の大学院で演劇を学んだ韓国出身の俳優である姜 侖秀氏の英語によるコメディショーと交流会に、38名が参加しました。姜氏は、「Life with full of failures」(日本語訳:失敗だらけの人生)と題して、自身の人生をユーモアいっぱい、身振り手振りを交えて語りました。参加者は、予期せぬ出会いにより想定外の人生を歩んでいく姜氏の話に引き込まれ真剣に聞き入っ



グループトークの様子

ていました。続いて、少人数のグループに分かれて、自分の人生に起こった失敗を披露し合いました。各グループには、英語が堪能な留学生ボランティアが加わり、ど

のグループもとても盛り上がっていました。

交流パーティーでは会場全員で自己紹介ゲームをし、参加者はたくさんの人と言葉を交わして互いに打ち解け、存分に英会話を楽しみました。最後に、会場から「予想していなかった人生でも、その選択の先には素晴らしい未来が待っている」という意見が多く挙がり、英語を通じて人生について考え語り合うことのできた時間となりました。



参加者全員で記念撮影

地域共生サポーター研修会

9月15日(土)

講師：結ぶ=YOU 多文化共生センターおかやま代表 大倉 美恵氏

県内で生活する外国人住民のコミュニケーションや生活面の支援を行う「地域共生サポーター」として、岡山県に登録しているボランティアと一般県民を対象に研修会を実施しました。

第1部では、岡山県内在住外国人の柴垣アイリーンさん(フィリピン出身)、金成仁さん(韓国出身)が、岡山で生活してみて感じたことやサポーターに求めることなどを発表しました。日本の習慣について外国人が感じる威圧感やバス停の漢字が分かりづらいなど、実際に外国人が困っている事例を聞くことで、サポーターとして持つべき心構えをあらためて考えるきっかけとなりました。

続く第2部では、大倉 美恵氏から多文化共生活動の経験談と団体を立ち上げる際に必要な書類や手続きなどについて聞き



柴垣さん(左)、金さん(中央)による発表



講師の大倉 美恵氏

ました。多様な多文化共生の支援活動が分かり、具体的な知識や言葉がけのコツなどを得ることができて、今後の活動にとっても参考になったという意見が寄せられました。ごみ捨ての決まりや、横断歩道の黄色信号への反応などのロールプレーを通じて、どのように行動すれば地域の仲間意識を高めることができるかを考えました。経験豊富な大倉氏の分かりやすい説明や進行に加え、参加者が多様な対応の仕方を披露したことで、会場は盛り上がりました。

第3部のグループ別交流会では、関心のある活動分野(日本語支援、ホームステイ、通訳・翻訳、外国人支援、子育て支援)ごとに分かれ、情報交換を行いました。

登録しただけで、どんな活動をすれば良いか悩んでいるサポーターにとって、活動の方向性が見えた良い時間でした。25名の参加者にとって多文化共生への意識を高め、行動を起こすためのヒントを得る機会となりました。



グループでの情報交換

岡山を知ろう交流バスツアー

10月21日(日)

8か国(インド、インドネシア、ウガンダ、韓国、中国、ネパール、ベトナム、ミャンマー)出身の外国人39名と日本人参加者15名、協会のボランティア7名の総勢61名がバス2台で笠岡市立カブトガニ博物館、笠岡ベイファーム、旧矢掛本陣、水車の里フルーツピアを訪



笠岡ベイファームのコスモス畑で秋を感じながら

問し岡山の自然や歴史を楽しみました。笠岡市立カブトガニ博物館では生きているカブトガニと化石、様々な恐竜の骨格などを見学して笠岡の古い歴史を知ることができました。恐竜公園では初めて出会った参加者同士で写真を撮ったり話をしたりしながら交流を深めました。笠岡ベイファームにはコスモスが咲いていて鮮やかな風景を楽しみました。旧矢掛本陣では石井家を訪問してボラン



ナンとカスタードクリームのピザ作りの様子

ティアガイドの説明を聞きなが

ら日本の歴史を学んだり、土産物屋で和菓子を買ったり、歴史あふれる街並みを散策しながら秋の風情を満喫しました。

水車の里フルーツピアではうどん作り、ピザ作り、いも掘りの体験を班に分かれて行いました。ガイドの丁寧な対応のおかげで楽しい体験となり、掘ったいもやできあがったうどん、ピザを持ち帰ることができて大好評でした。岡山でのすてきな思い出になったと喜ぶ留学生や、外国人との交流ができて大変勉強になったという日本人の意見が寄せられました。



恐竜時代にタイムスリップ

岡山の歴史と自然に触れ、岡山のおいしい食べ物をたくさん経験できた良い旅行でした。

「私、岡山に住んでいます」 岡山で活躍する外国人をご紹介します

年間約88万人の入園者の内、15万人以上が外国人観光客という岡山後楽園で今夏、県職員として採用されたマリオさん。

一岡山に来たきっかけ

2011年イタリアで彼女と出会い、2013年結婚、2014年彼女の出身地だった岡山に来ました。アニメや漫画のイメージを持って日本に来ましたが、言語やマナーを知らなかったのが、カルチャーショック、ガラスの壁のような



歴史と芸術の街アスコリ・ピチェーノ
(出典: <https://ja.wikipedia.org/wiki/>)

ものを最初は感じて大変でした。日本の文化に興味があったし、家族がいたので、だんだん慣れて住みやすくなってきました。

イタリアでは、建築家、カーデンデザイナー、美術館ガイドとして働きましたが、岡山では、ウエイター、英語講師をしました。日本文化への興味がどんどん強くなっていき、心の奥にある「美術への愛」を伝えたくなり、日本語を勉強しました。日本や岡山の文化、歴史を勉強していくうちに日本とヨーロッパの文化の類似点を発見することが、だんだん面白くなってきました。

一後楽園との出会い

3年前、日本語の先生から後楽園ボランティアガイドをやってみたらどう?という勧めがあり、2016年、「後楽塾」を受講し、歴史、専門用語、おもてなしマナーを勉強しました。2017年春にはボランティアガイドとしてデビューし、英語、イタリア語だけでなく、日本語でもガイドをしました。お客様との対話が面白かったです。

ガーデンデザイナーとして、ヨーロッパ風庭園、英国庭園、日本庭園を勉強していたこともあり、ぜひここで働きたいと思っていたときに、外国語対応スタッフに応募したことが運命を決めました。採用されたときは、うれしさ50%、責任があるので頑張らなければ!と思ったのが50%でした。



園内の茶畑は外国人観光客にも人気です!



後楽園の魅力を世界に伝えたい!

岡山後楽園外国語対応スタッフ

パスクアリーニ・

マリオさん Mario Pasqualini

イタリア

マルケ州アスコリ・ピチェーノ出身

一外国人観光客を呼び込むために

園内の看板・案内の翻訳や外国人からの問合せに応じています。毎日、新しい日本文化を吸収して、外国人に伝える仕事です。

7年前イタリアで、古代ローマ人の作った古い橋についての説明がなかったために、彼女がその価値や歴史の背景を理解するのが難しかったことがあります。後楽園も「歩くところ」というだけではなく、外国人にもよく分かる説明を加えることで、文化の共有ができ、もっと楽しむことができると思います。

また、過去の歴史と現代美術をコラボレーションする活動ができればいいと考えています。若者の来園者が少ないので、クリエイティブなデザインやイベントを加えれば、若者も増えるのではないかと思います。そして、いつか僕が好きなオペラの美しい音楽とコラボしたいです。

一夢、大切にしたいこと

自分の故郷に似ている岡山のことが好きだから、住み続けたいし、岡山で働き続けたい!そして、全世界に岡山後楽園の名を広めたいです。

個人的には、去年娘が生まれて父親になったので、娘の成長という美しい夢のためにも家族を大切にしていきたいです。



家族が増えました♪

Message from Mario

“庭園は人生の反映”

僕が一番好きな後楽園は「冬の後楽園」。

赤い椿の花のパノラマ、生きている芽など“再生”のイメージがとても美しい。

庭園は人生の鏡のようで、庭園を見たら自分を見ている感じがします。だから、自分のことを知るためにも、できれば1度だけでなく、春から冬まで何度も来てください! 後楽園でお待ちしております!

一国に様々な宗教や文化が混在するインドネシアとシリアにおける言語や歴史について、お話を伺いました。

インドネシア



トリアンティカ・インダーさん(ジャカルタ出身)
所属：岡山大学大学院 社会文化科学研究科 文化人類学
言語：インドネシア語、英語、日本語 宗教：イスラム教

「多文化な暮らし」

インドネシアは多文化の国とよく言われています。34州に分かれ、各州の民族による言語・方言はなんと546言語もあります。こんなにたくさんの言語・方言があって、どうやってお互いにコミュニケーションを取るの?という疑問があると思いますが、それはインドネシア語という共通言語を使って、お互いに理解し合うことができるのです。

今回は「おはようございます」をインドネシアの各州の民族の言語・方言で少し紹介したいと思います。インドネシア語では「Selamat Pagi(スラマト パギ)」と言います。西ジャワ島にいるスダ族のスダ語では「Wilujeng Enjing(ウィルジェン ウンジン)」と言います。バリ島にあるバリ語では「Rahajeng Semeng(ラハジェン スムン)」と言い、東インドネシアにあるパプア島では「Amole(アモレ)」と言います。

インドネシアの民族の言語・方言は外国語のようなため、ほとんどのインドネシア人はバイリンガルで、共通言語と自分の民族の言語・方言を両方話せます。



インドネシアの言語・方言

シリア



アルイーサ・オラーさん(ホムス出身)
所属：岡山大学博士課程 環境生命科学 農学部
言語：アラビア語(共通語)、シリア語、英語 宗教：キリスト教

「Syrian Mosaic」

地中海の十字路に位置する巨大な遺跡を持つ小さな宮廷、シリアについて紹介します。最古の歴史を持つ地といわれ、古代文明の生まれた地でもあります。現在は絶滅してしまったウガリット文字という古代の文字も生まれました。1万年前に人類の進化が見られ、最初の農耕と牛の所有が見られます。まもなくして、エブラやマリといった最初の王国が成立しました。

地中海の貿易や港湾のために最も重要とされた地域の一つであるため、バビロンやペルシャ、ギリシャ、ローマ、アラビア、オスマン帝国といった周辺諸国の台頭に直面し、フランス統治下となり、その後独立を果たしました。様々な州都や帝国、信仰が交わった結果、世界のどこにも見られない多様でユニークな文化を生みました。例えばダマスカスのウマイヤードモスクは元々、雷神を祭る神殿でしたが、その後キリスト教の聖堂となり、現在は世界最古のモスクとして親しまれています。この交ざり合った特徴は、多様な文化と信仰の「シリアン・モザイク」と呼ばれています。シリア人の大半はイスラム教徒ですが、少数派キリスト教徒もいて、小さなユダヤ人コミュニティもあります。

この豊かで多様な歴史から生まれたシリア人は、その寛容さと親切心で評判です。



ウマイヤードモスク

(出典:シリア政府観光局 <http://www.syriatourism.org>)



NPO法人メンターネット



団体概要

2004年7月に「多文化協働の仕事づくり・まちづくり」をコンセプトに、行政書士・社会保険労務士・司法書士などの資格者やIT技術者・日本語教師などの専門家です設立しました。

事業目的は、①外国人就労・起業支援 ②入国在留(ビザ)・生活相談及び日本語学習支援 ③外国籍住民及び行政との協働として在住外国人支援活動を行っています。

理事長 岡崎 博之
事務局 〒700-0807 岡山市北区南方2-13-1
きらめきプラザ2階 ゆうあいセンター3号室
電話番号：086-280-6076 FAX番号：086-280-6077
URL：http://mentor.or.jp/ Email：visa@mentor.or.jp

活動紹介

毎年、外国人及び関係者のビザを中心にした相談を百数十件受け、入管申請など個別の支援をしています。

留学生の企業への就労支援では大学・専門学校との懇談・講義をし、「外国人技能実習制度適正化」事業では、多言語の「法的保護情報講習・生活ガイダンス」のテキストを作成し講義をし、フェイスブックでの広報や地方公共団体への要望もしています。



K大学の「キャリア開発」講座で新入留学生に「日本の法律・生活」講義

図書資料室からのお知らせ

岡山国際交流センターの4階には図書資料室があります。国際交流等に関する国内外の書籍、新聞、資料(出版年の古い資料有)等が自由に閲覧でき、ビデオやDVD、CD等の視聴ブースも設置され、語学学習にもご利用いただけます。書籍、新聞、雑誌、視聴覚資料は国際交流、国際理解・協力等に関するものや日本語、外国語学習に関するもの、日本文化や海外事情の紹介などに重点を置いて収集しています。新書も入荷していますので、皆さんぜひいらしてください。

ボランティア募集

図書資料室ではボランティアを募集しています。活動内容は、新聞・雑誌の整理、書架整理、新聞の切り抜き、DVD/CDの貸出・返却の受付、コピーサービス、開館・閉館作業など。本が好きな方、一緒に心地よい図書資料室作りをしてみませんか。

【応募要件】10:00~19:00のうち、3時間程度または終日活動可能な方
その他詳細につきましては、企画情報課までお問い合わせください。
(TEL:086-256-2914)



新着図書のご紹介

図書資料室では、季節やイベントにちなみ、新しく図書を入荷しています。今回は新着図書の中から3冊を紹介します。

- 「ユージン・スミス写真集」ユージン・スミス著(クレヴィス 2017年11月)
写真史上もっとも偉大なドキュメンタリー写真家のひとり。戦時中の日本の写真も多く、ジャーナリズムの今を見直すきっかけになります。2017年11月に生誕100年を迎え、東京都写真美術館で写真展も開催されました。
- 「アジアに生きるイスラーム」笹川平和財団編(イースト・プレス 2018年4月)
イスラーム(イスラム教)というと、中東や北アフリカの国々を思い浮かべる人が多いと思いますが、実はアジアの国々にもたくさんのイスラム教徒が住んでいます。多文化国家日本において外国人を理解するために役立つ一冊です。
- 「世界の郷土菓子」林周作著(河出書房新社 2017年4月)
32か国300種以上から厳選されたお菓子がたくさん。食べたことのない世界のお菓子と旅日記を読んで旅行気分を味わいましょう。



日本語学習リソースコーナーのご紹介

岡山国際交流センター4階に、日本語教材を集めた「日本語学習リソースコーナー」を設置しています。日本語の教科書、試験対策問題集、日本語教育関連の参考図書・教室活動集、教具・絵カード、子ども向けの日本語教材を1,800点ほど取りそろえています。その他、図書資料室内でご利用いただけるコピーサービス、CDやDVDを視聴できるオーディオ機器もあります。

日本語を指導している方、日本語を学んでいる方に限らず、どなたでも図書資料室内で閲覧できますので、ぜひご利用ください。

- 貸出日時 10:00~17:00(日曜日休館)
- 対象者 県内の日本語ボランティア団体・教室で日本語指導に携わっている方及び子ども日本語学習サポーターに登録している方
- 貸出冊数 6冊
- 貸出期限 4週間(延長申請により、さらに2週間延長可能)
- 問合せ 企画情報課 日本語学習リソースコーナー担当まで
TEL:086-256-2914 FAX:086-256-2489
E-mail: info@opief.or.jp URL: http://www.opief.or.jp/japanese/resource/

1月

1月～3月 国際貢献NGOフェア

国際貢献活動を行っている県内のNGO団体が活動内容を紹介するパネル展示と講演等を開催します。

- と き 平成31年1月～3月(10～12週程度)
- と ころ 岡山国際交流センター 1階 ロビー(パネル展示)及び会議室(講演等)
- 対 象 一般県民 ●参加費 無料
- 共 催 (特活)岡山県国際団体協議会(COINN)
- 申込み 不要
- 問合せ (特活)岡山県国際団体協議会事務局まで ☎086-256-2535(月～土曜日 9:00～17:00)

11日(金)・18日(金)・19日(土) 多文化共生コミュニケーションサポーター研修会

医療機関、学校、行政機関の窓口等で外国人の支援をする通訳ボランティアに必要な基礎知識や心構えを学びます。

- と き 第1回 平成31年1月11日(金)
第2回 平成31年1月18日(金)
第3回 平成31年1月19日(土)
- と ころ 岡山国際交流センター
- 対 象 協会の「多文化共生コミュニケーションサポーター」登録者及び新規に登録を希望する方
- 参加費 無料 ●定員 各回25名程度(要申込み)
- 申込み 企画情報課まで

26日(土) フェアトレード交流会

フェアトレードについてざっくばらんに語り合う交流会です。

- と き 平成31年1月26日(土) 14:00～16:00
- と ころ 岡山国際交流センター 7階 多目的ホール
- 内 容 事例発表「ラオスのコーヒー産地の現場を訪ねて」、交流会など
- 参加費 協会会員、外国人、高校生以下 無料
一般 500円
- 定員 40名(要申込み) ●共催 岡山フェアトレードの会
- 申込み 企画情報課まで

1月

27日(日) ボランティア研修会

多文化共生の地域づくりを進める必要性について考えます。

- と き 平成31年1月27日(日) 13:00～16:00
- と ころ 岡山国際交流センター 地階 レセプションホール
- 内 容 講義、ワークショップ
- 講 師 有田 典代氏(国際文化交流協会 事務局長)
- 対 象 当協会ボランティア登録者
(新規にボランティア登録を希望する方も可)
- 参加費 無料 ●定員 20名程度(要申込み)
- 申込み 企画情報課まで(12月下旬受付開始予定)

2月

16日(土) 「やさしい日本語」研修会

外国人への情報提供が正しく適切に伝わるように、どの国の人にも理解できる「やさしい日本語」の研修会を開催します。

- と き 平成31年2月16日(土) 13:00～16:00
- と ころ 岡山国際交流センター 地階 レセプションホール
- 対 象 日本語学習指導者、地域共生サポーター、多文化共生コミュニケーションサポーター ほか
- 定員 50名程度(要申込み)
- 申込み 企画情報課まで(1月中旬受付開始)

23日(土) 研修会「外国人と共に学ぶ災害時の対応」

災害時の外国人被災者支援に関心のある県民(国籍不問)や災害救援専門ボランティア(通訳・翻訳)を対象に、研修会を開催します。講義・ワークショップのほか、非常食体験や防災グッズの配布もあります。

- と き 平成31年2月23日(土) 10:00～15:30(予定)
- と ころ 岡山国際交流センター 7階 多目的ホール
- 参加費 無料 ●定員 40名程度(要申込み)
- 共催 岡山県、岡山ロータリークラブ
- 申込み 企画情報課まで(1月中旬受付開始予定)

平成30年7月豪雨 災害義援金御礼

岡山国際交流センター受付窓口に設置しておりました平成30年7月豪雨災害義援金の募金箱に皆様から**募金10,027円**をいただき、日本赤十字社岡山県支部に寄付させていただきました。ありがとうございました。

会員募集

一般財団法人岡山県国際交流協会では会員を募集しています。

☆会員の特典

- 会報誌「おかやま国際交流」による国際交流情報の提供(年4回)
- メールマガジンの配信(月1回)
- 協会主催事業への参加費割引(団体会員は1団体2名までを割引)
- 入会時に記念品をプレゼント

☆年会費

個人会員：2,000円 団体会員：10,000円
賛助会員：30,000円

☆申込み・問合せ 総務課まで

TEL:086-256-2000 ※9:00～17:30(月～土曜日)
E-mail:kokusai@opief.or.jp



問合せ

一般財団法人 岡山県国際交流協会

企画情報課 企画情報班

☎086-256-2914 (月～土 9:00～17:00)

総務課 ☎086-256-2000 (月～土 9:00～17:30)

会議室等の予約 受付管理班 ☎086-256-2905 (9:00～18:00)

[休館日]12月29日～1月3日及び臨時休館日(ただし日曜日は貸室業務以外休み)

編集・発行

〒700-0026 岡山市北区奉還町2-2-1

岡山国際交流センター内

一般財団法人 岡山県国際交流協会

☎086-256-2000(月～土 9:00～17:30)

☎086-256-2226

ホームページ: <http://www.opief.or.jp>

Facebook: <https://www.facebook.com/coolopief/>

Twitter: https://twitter.com/opief_okayama

E-mail: kokusai@opief.or.jp

協会HP

